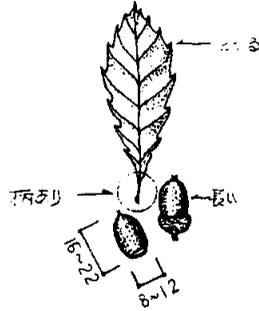


コナラ

新緑が淡く美しい樹です。葉柄がありミズナラと区別できます。まとまった林が大谷地の北星学園大学の南側に見られます。

コナラ



札幌周辺で見られるドングリのなる樹は以上の4種類です。1種ごとに見るのではなく、見比べてみる方が、いろいろと興味がわくような気がするのですが、いかがでしょうか？

ドングリはリス、ネズミ、カケスなどの動物達の大好物です。また、蝶の仲間のシジミチョウ類の中でもゼフィルス（森の妖精）と呼ばれるミドリシジミ達の食樹でもあります。

樹を見る時、葉、幹、樹形、実、新緑、紅葉、冬木立など、いろいろと見る要素も季節によって変わっていきますが、樹をウォッチングすることで、それらを取りまく自然を楽しむのはいかがでしょうか……。

観察会記録－赤岩の巻－

金 上 由 紀

赤岩行きに付いて何か書くと、加藤さんに安請合いしたのはよいけれど、何がなんだかさっぱり思い出せない。そこで同行した長女に「ねぇ、赤岩どうだったっけ。」と聞いてみた。「なにそれ」「去年の5月11日に行ったでしょ、小樽のほら……」と言うと、「私は今に生きているから、そんな太古の事は思い出せない。」ときた。もっともだ、私など明日に生きているから今日の事も確かでない。しかしそれでは困るのでもう一押ししてみた。「ウーン、木の花を見に行った、白いヤツ……」「コブシだろ」やはり一緒に行った未娘が叫ぶ。「違うよ」「じゃあ、ウメだろ」「……」

きれぎれに二人が思いだした事をまとめると、まずだらだらと登りつめた所にトイレがあった。「これがひどく臭いんだろ」その回りにきれいな花があって鼻をつまみながら見た。少し下がると滝のように水が流れていて、水を飲んだり手を洗ったりした。海に向かって視界が開けると岩場があっ

てロッククライミングをしている人々がいた。敷を分け入ったところで軽食を食べているとオオルリが2羽やってきて、間近で見ることができた。午後からは崖の緑の道を見晴らしながら歩いた……。

「それで、花の名は一つくらい覚えている？」「……」「じゃあ、一緒に行った人達は？」「オジサンとオバサン」……ゴメンナサイ……。

わが家は5人家族である。この日は3人だけが赤岩に出かけた。ほかの二人はどうしていたのだろうと聞くと、「悦ちゃんは修学旅行で、帰りに札幌駅で出迎えたでしょ。パパは出張だったよ。」ああ良かった、ちゃんと理由があって。家庭崩壊ではなかったんだ。

手帳を調べてみると、この日は「オオカメノキの花を見る会」でヤマブドウのピロードのような赤い芽や、カククリの花、ハウチワカエデの花、雌花、ミツバアケビの花芽等、70種の記録がとってあった。

そして、50 ccのバイクで納沙布岬までチョイと行ってしまう原先生が、意外や高所恐怖症である事を知った日でもありました。